

行仙宿・かまど据付と水場径巡視他

◇ 実施日：平成26年3月16日(日) 快晴、気温0℃。

◇ 参加者：沖崎吉信、児嶋道夫、生熊敏男、畑林秀味、

大江加予子、湯川一郎、川島 功 計7名

◇ 作業内容：かまど据付、水場径巡視、棚完成後の物品整理、

ソーラー発電修復、玄関前水槽設置、薪作り

先週8日に予定した作業は、真冬並み寒波の南下もあり、コンクリート打ちは無理と延期したが、玉岡さんの呼掛けで7日にかまど据付基礎造りが実施されたので、本日がかまど据付完了の段取りになった。

今日は春霞がかかり暖かい、ダム湖沿いの桜は、少しほころび始めた様で、幾分赤みが増した様に思える。

浦向より国道425号へ。ゲート横に「崩土・通行止め」の標識が点滅している。ゲートが開いているので、何処だろう、行けるのかなーと走行する。谷から離れたヘアピンカーブを過ぎた上部に、崩土で修復した跡がある。カナウナギトンネルを抜けた上部は、工事のため片側通行の標識があったが、日曜日なので工事はしていないので通行でき、略予定時間で登山口に着く。

湯川一郎君は、お父さんの療養と母親による介護状況把握に帰省され、忙しいのに既に待機しておられ、参加して頂き嬉しく頼もしい限りである。

2日前から左足踵上の盛り上がった皮膚(タコ)が痛い、沖崎さんに伝えていた事もあり、共同装備は川島以外で持つと・・・

久しぶりに個人装備だけで登る。

補給路の所々の日陰には、まだ寒く霜柱が立っている、小屋迄は、風も無く暖かかったが、佐田ノ辻に登ると風があり寒い、小屋前の気温は0℃である。



登山口にて



第2ベンチで小休止

台所のバケツの水は、厚い氷になっている。ブロックと段ボール紙で養生されていたが、基礎は大丈夫だろうか、そっと型枠を外す。まだ完全に乾燥していないが問題なさそうである。

根木さんに調達して頂いた耐火ボードは、かまど下に敷くため長尺物を敷くと流し台と框の間にびったり収まる。据付作業は、生熊、湯川、畑林さんに。一般の棚完成後整理した際に処置判断要の物が置かれており大江さんに、ロケット・ストーブ耐火レンガ積み直しとソーラー発電・電流計の接続修復は、児島さんをお願いする。沖崎、川島は、水場径の点検巡視へ。一般の積雪の重みによる倒木も予想され、チェーンソーを持って下る。杉林下と水場前の谷を渡る橋の上にアセビの大枝が倒れこみ、チェーンソ

1で2本切断した以外は特に支障なし。

水場は、雪解けと先日の大雨で音を立てて流れている。

水(7L)は、18日に電源開発(株)橋本送電所さんが、定期的に無償提供して下さっている飲料水・非常食缶パン、木炭・カセットボンベを、行仙宿迄運び上げて下さるとの連絡があり、今回一緒に出来ない事から、せめてコーヒー等を飲んで頂く折に使って頂く為に、沖崎さんに運び上げてもらう。玄関前に水槽を据える。



完成棚と棚の整理物品 水場前の橋上の倒木枝 大江さんかまど火入れ

かまど煙突径は細く長さ約30cm煙突に、既存の径が太い煙突を被せる。寄贈して頂いた大江さんに火入れをして頂き、重ね合わせた煙突からの煙漏れを点検したが、問題なく排煙され、燃え具合も良い。しかし、かまどと煙突隙間から空気を吸い込む事から、かまど内の煙吸引が弱くなると推測される。

11時半過ぎに昼食。食後、児嶋さんのコーヒーと大江さん差入れの「鈴焼き」で談笑する。

昼食後、生熊さん煙突隙間にアルミ箔充填、水槽とブロックの

針金結束をして下さる。沖崎、児嶋、湯川さんは、薪作り、川島は、水場上の棚設置検討と資材倉庫内の整理。畑林、大江さんは廃棄等判断要の物品整理と小屋内清掃をして下さる。

児嶋さんは、奥さんの実家小森集落で要修理単車を積んで帰る用事もあり、予定した仕事を終え14時15分下山。

本日、白谷トンネル冬季通行止め解除の日であり、沖崎さんに確認して頂いたら通行可能との事。沖崎・湯川車は不動トンネル↓西山經由、児嶋車(川島)は、不動トンネル↓小森↓西山經由で帰宅のため、浦向で流れ解散とする。(川島記)



食後の談笑



小屋前で記念撮影

◇寄贈品

湯川：ビール1箱。畑林：食器類(2升酒箱分)。

根本：耐火ボード(今回1枚、計3枚)。

行動タイム

新宮7:00→8:35 行仙宿登山口 8:50→9:35 行仙宿(11:40 昼食・休憩) 12:45 行仙宿 14:15→14:50 登山口 14:55→16:35 新宮。